

地方経済

CCPSグローバルサミット

岡山で国内初開催

来月 プラント安全運転討議

化学プラントの安全運転技術に関する国際会議「CCPSグローバルサミット」が9月12、13の両日、岡山市北区駅元町の岡山コンベンションセンターで

開かれる。大手企業の担当者や世界の技術者、研究者が情報交換する学術会議で、日本での開催は初めて。12日は、倉敷市・水島コンビナートに立地する旭化成、JXTG エネルギ、三菱ケミカルなど国内大手7社の役員らが「安全文化とリーダーシップ」をテーマに公開討議する。2日間で計124

件の論文発表があり、協議内容などを踏まえ、事故予防に向けた提言を発表する予定。

サミットは2014年からインド、マレーシア、サウジアラビアで開催されており、4回目。

1984年にインド中部ポールの殺虫剤工場から有毒物質が漏出し、周辺住民5千人以上が死亡した事故をきっかけに、85年に設立された研究団体・化学プロセス安全センター(CCP S)が主催。

事務局を務める岡山大耐災安全・安心センターの鐘敦子プロジェクトマネジャーは「半世紀以上の歴史を誇る水島コンビナートが培ってきた安全技術を世界に発信したい」と話している。(久万真毅)